保護地域と
ポスト愛知枠組み
について

国際自然保護連合日本委員会事務局長
（（公財）日本自然保護協会）
道家哲平

COP14の議題

1.開会

2－４.会議運営事項

5.今後のCOPと開催地

6.COP13以降の会議の報告

7.予算関連

8. 戦略計画の実施状況

9.資源動員と資金メカニズム

10.キャパシティ・ビルディングと技術的及び科学的な協力

11.知識管理と普及啓発

12.国別報告書と評価の仕組み

13. アクセスと利益配分、バイオセーフティ、８（j）との連携

14. 他の条約、国際機関、活動との連携

15.条約／議定書の有効性評価

16.IPBESの第２次計画

COP14の議題

17.生物多様性のための2050ビジョンとポスト2020地球枠組みの準備

18.遺伝資源の電子配列情報

19.８条（j）項関連規定

20.持続可能な野生動物管理

21.生物多様性と気候変動

22.生物多様性の主流化

23.花粉媒介者の保全と持続可能な使用

24.空間計画、保護地域と他の地域に基づいた効果的な保全手法（OECM)

25.海洋と沿岸の生物多様性

26.外来種の侵入

27.合成生物学

28.責任と救済(14条、段落2)

29.その他の事項

30.報告書の採択

31.閉会

bd20.jp
をご覧ください

にじゅうまる 国際会議レポート

SBI2
SBSTTA-22
SBSTTA-21
CBD-COP13
BCD2016
IUCN-WCC6
SBI1
SBSTTA-20

国際会議レポート

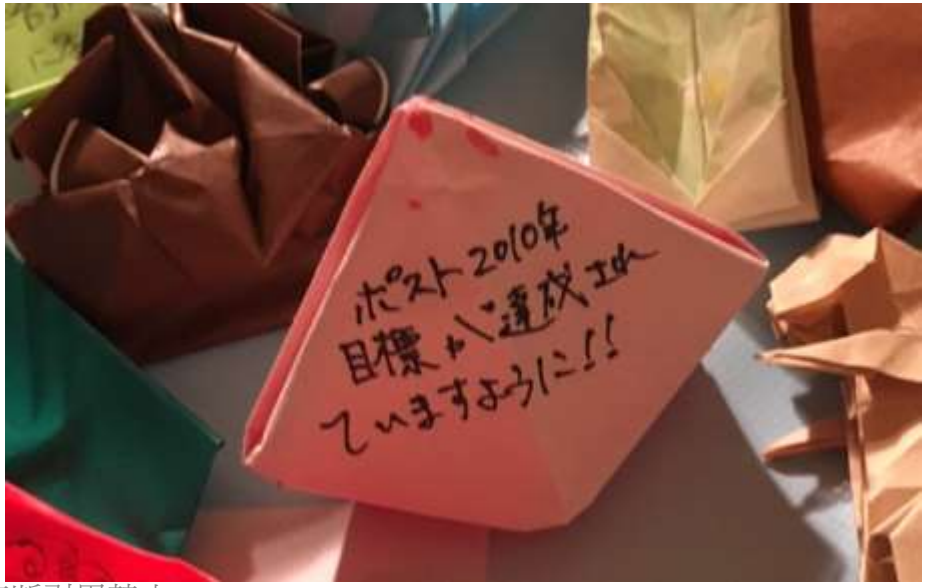
にじゅうまるプロジェクトの特徴の一つは「世界の動きを常に把握し、世界の動きにそって、日本の愛知ターゲット達成を進めていく」ということです。ここでは、国際会議を通じた世界の最新動向を紹介していきます。難しい内容もありますが、「COP10ってその後どうなったのだろう」に答えます。国際会議場から送られる臨場感あふれる現地レポート、愛知ターゲット達成のための取組みの底上げのヒントに繋がる解説など、多彩で、日本でここだけのコンテンツをお楽しみください。

SBI2

正式名称：	第2回生物多様性条約実施補助機関会合（Second meeting of the Subsidiary Body on Implementation）
開催日：	2018年7月9日～13日
開催地：	カナダ　モントリオール　ICAO会議場
ウェブサイト：	https://www.cbd.int/doc/?meeting=SBI-02
会議のレポートはこちら	http://bd20.jp/category/conference/sbi2/

目次

- 保護地域（OECM、効果的な管理、景観との統合）
- ポスト愛知（ポスト2020地球枠組み）



目次

- 保護地域（OECM、効果的な管理、景観との統合）

- ポスト愛知（ポスト2020地球枠組み）

保護地域

- 愛知ターゲット11のほぼ全要素について、CBDの指針が完成

- 「2020年までに、少なくとも陸域及び内陸水域の17%、また沿岸域及び海域の10%、特に、生物多様性と生態系サービスに特別に重要な地域が、効果的、衡平に管理され、かつ生態学的に代表的な良く連結された保護地域システムやその他の効果的な地域をベースとする手段を通じて保全(OECM)され、また、より広域の陸上景観や海洋景観に統合される」

付属1
景観統合のガイダンス

付属2
効果的管理ガイダンス

付属3
OECM科学技術助言

付属4
海洋沿岸地域配慮事項

その他の地域ベースの効果的な保全手法

OECM(Other Effective area-based Conservation Measure)

- 「OECMとは、保護地域ではない地理的に定義がなされた場所で、生態系機能やサービス、適用できる場合は、文化的、精神的、社会経済的またはその他の地域に関係（locally relevant）する価値とともに、生物多様性の生息域内保全に関する積極的で持続的な長期の目標を達成する仕方で統治・管理されている場所」という定義

- 「人と自然の共生地域」という名称が近い？
- 国が指定する場所でない、民間の保全地域、農地も、保護地域的地域として認められる

効果的な管理／重要生息地の保全

- IUCNのグリーンリストなどの成果を反映

- 管理効果の評価が世界的に進む。しかし、日本は（報告が？）ゼロ。アジア地域では、ブルネイ・ダルサラーム、東ティモール、北朝鮮と並ぶ。

- 重要生息地（Key Biodiversity Area：絶滅危惧種が一定程度利用する場の特定手法)の保全を通じて、愛知目標11と12を同時に解決

ポイント　保護地域＝戦略的に広げる可能性

- 管理効果を評価していない。IUCNグリーンリスト（よい管理を認め褒める仕組み）の導入も中国や韓国が一歩リード
- 海洋保護区（8.3%）も、微妙な登録（漁業権設定地域、海洋資源開発促進法指定地域などで９割近くを計上）。→OECMとしての登録？
- 日本の国立公園を世界屈指と誇れる、人材・予算・管理体制を
- OECMの工夫次第で、保護地域施策が大幅拡張

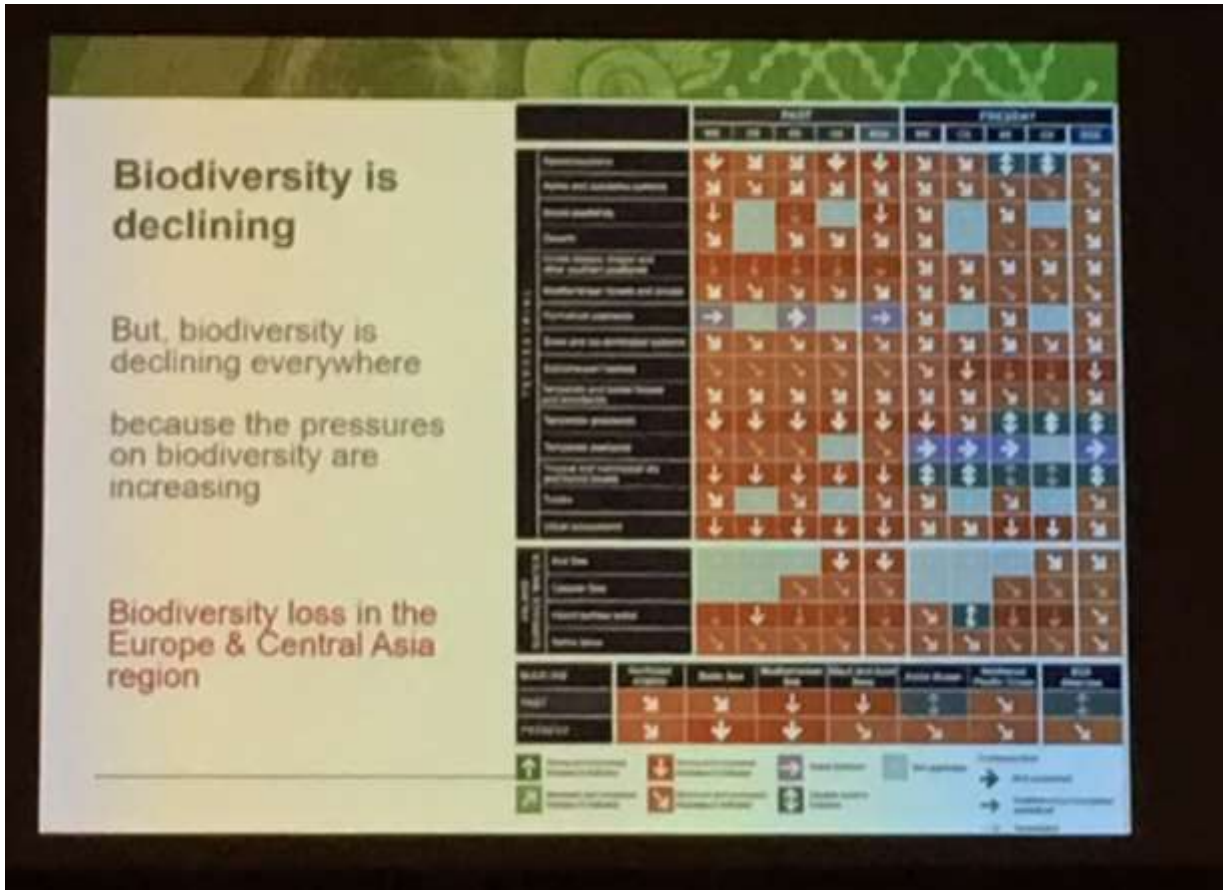
目次

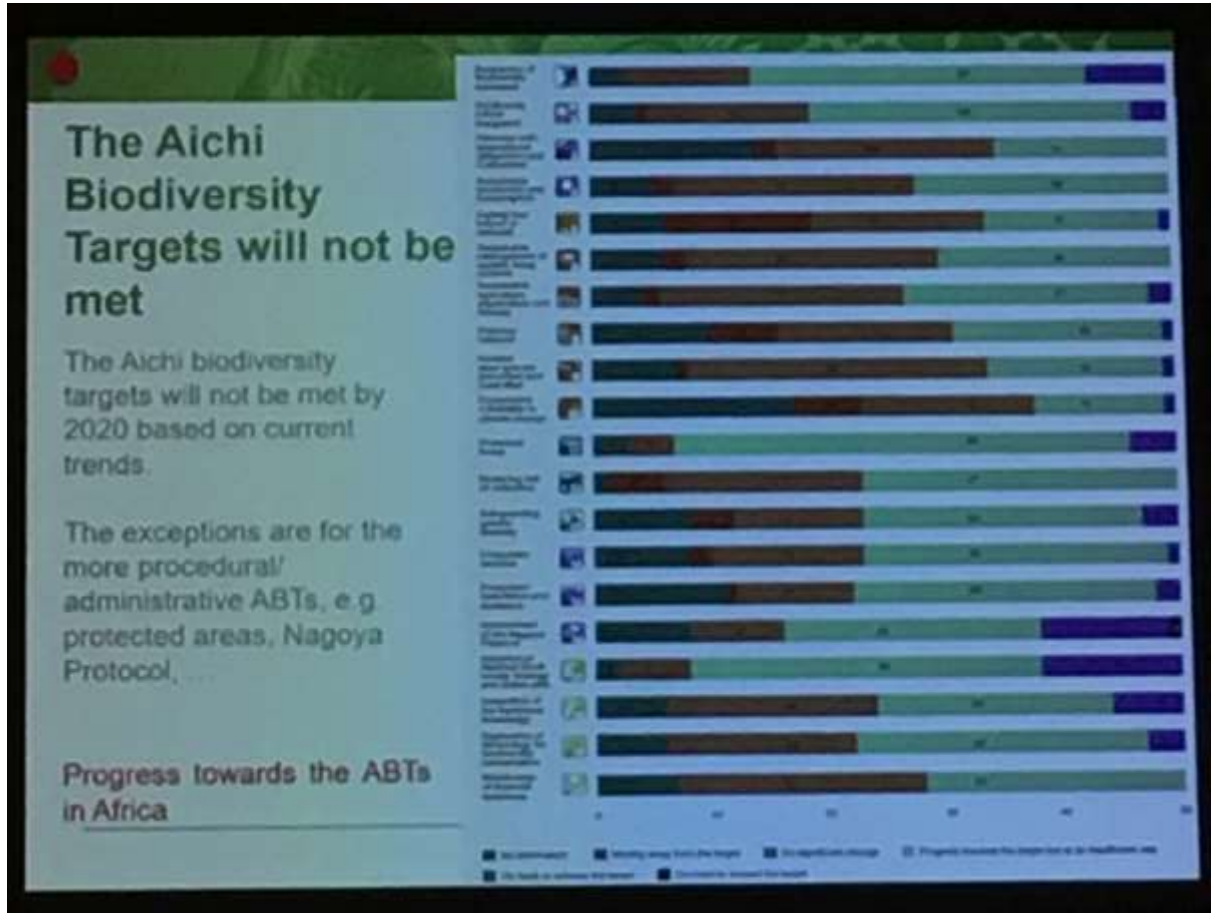
- 保護地域（OECM、効果的な管理、景観との統合）

- ポスト愛知（ポスト2020地球枠組み）

基本認識

- 愛知ターゲットは、持続可能な開発目標(SDGS)達成のための基盤
- 2050年ビジョン（人と自然の共生する社会）は今なお目指すべき世界
- 生物多様性の劣化は、今なお、ほぼ全地域で進行中（IPBES)
- 愛知ターゲット達成のための行動は数多く生まれているが、劣化を止めるに至っていない。
- 劣化を止めるには、変革的変化（transformative change)が必要


Biodiversity is declining
But, biodiversity is declining everywhere
because the pressures on biodiversity are increasing
Biodiversity loss in the Europe & Central Asia region


The Aichi Biodiversity Targets will not be met
The Aichi biodiversity targets will not be met by 2020 based on current trends.
The exceptions are for the more procedural/ administrative ABTs, e.g protected areas, Nagoya Protocol, ...
Progress towards the ABTs in Africa

現在の決定案

- 参加型プロセスを採用（パラ1）
- 様々な人に行動を引き起こす内容、2050年ビジョンのステップとなること（パラ2）
- 国、地域、ローカルレベルでプロセスを作る。国や自治体、先住民地域共同体、国際団体、市民団体、女性やユース団体、民間や財政セクターや他のセクターの参加（パラ3）
- 締約国、先住民地域共同体、民間団体を含むステークホルダーに対して、COP15の開催前に、自発ベースでポスト2020枠組みと2050年ビジョンに貢献する生物多様性コミットメントの開発を検討すること(to consider developing)を奨励（パラ9）
- 国連総会に2020年の首脳級生物多様性サミットの開催提案（パラ10）

現在の決定案

重要原則：

- 「参加」
- 「包摂性inclusive」
- 「包括comprehensive」
- 「変革的」
- 「触発的（Catalytic）」
- 「知識ベース」
- 「透明性」
- 「反復性（何度も意見を往復。合意と当事者意識）」

ポスト2020のNGOの見方

- 愛知ターゲットの枠組み/目標は今尚妥当

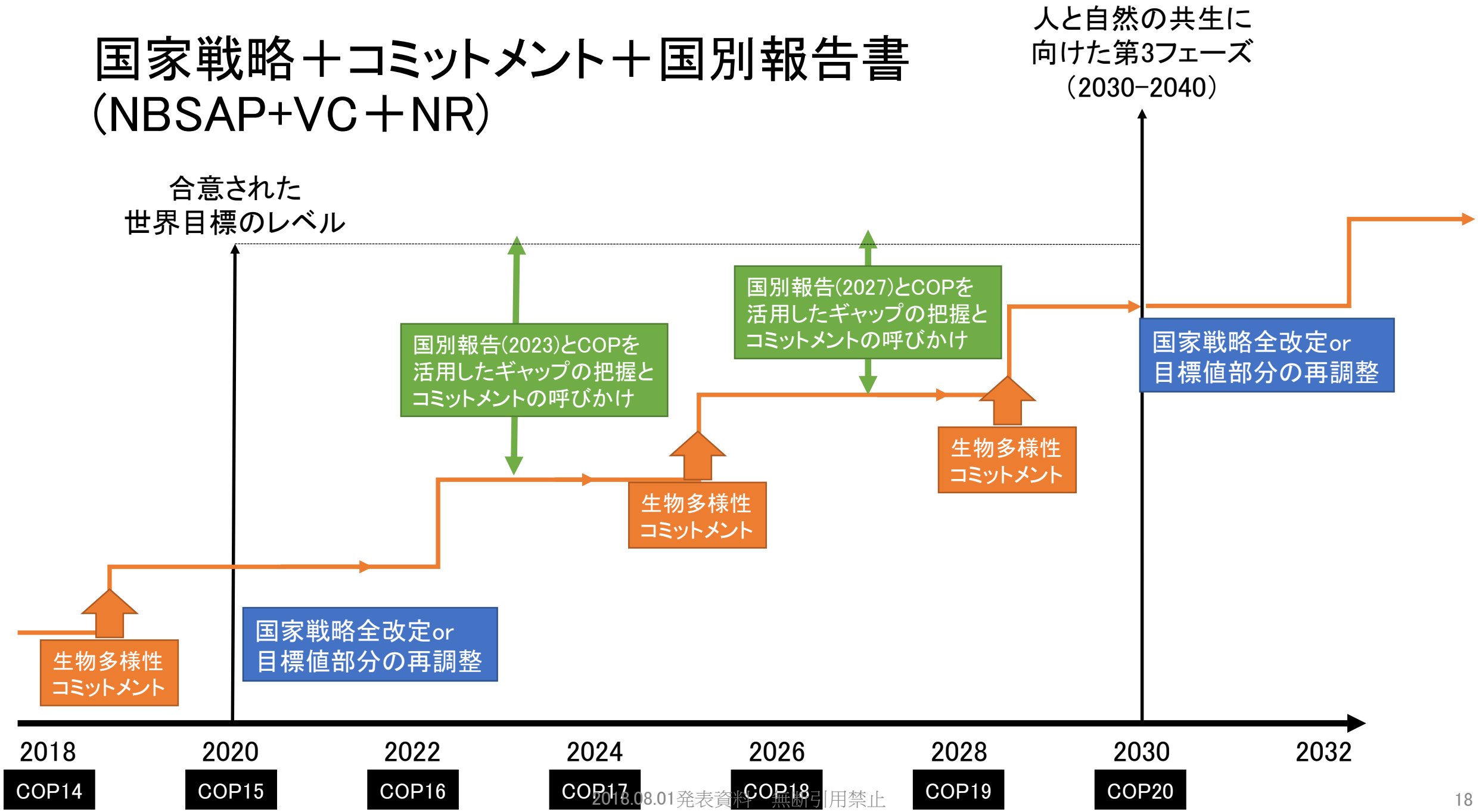
- 実施メカニズム、横断的実施能力向上が必須

- 世界目標と、国ごとの目標の総和に生まれるギャップを埋める仕組みが、必要ではないか。

ー　生物多様性国家戦略＋国別報告書
　　＋自発的貢献（VC）（or 生物多様性版NDC)

ー　政治的注目と盛り上がり、政府以外の積極関与/当事者意識を引き出す

国家戦略＋コミットメント＋国別報告書（NBSAP+VC＋NR）



2018.08.01発表資料　無断引用禁止

課題

- 生物多様性で、国や企業、NGOなどバラバラのレベルで、どんなコミットメントを出して、それが、総和とギャップが出せるものなのか？CO2と同じようにうまくいく？

- 出しやすい（簡単な）コミットメントしか出てこないのでは？

- コミットメントの受入・チェック・実施確認などを、誰がどういうメカニズムで行えるのか？Climate Action Trackerのような仕組みが可能？

ポイント

- Paris Momentum of Biodiversity/生物多様性のパリモメンタム
- Transformative Change
- スイス政府、ドイツ／WWF、IUCNなどが先行。中国動向は不明
- COP10の際に、人と自然の共生というビジョンを示した日本。ビジョンだけ主張して、ビジョンに至るステップは示さなくてよいのか？

- 日本でどのように「参加型プロセス」や「コミットメントを引き出す仕掛け」を作るのか、作らないのか？UNDB-Jの成果リレーの活用？
- 生物多様性コミットメントに、IUCN-Jにじゅうまるプロジェクトの成果やノウハウ提供

- ２０２０はスーパーイヤー（国連75周年、パリ協定開始、SDGs実施第2ラウンド、ポスト愛知）。オリンピックをお祭りにして良いか？

UNはバックキャストが流行中

- 持続可能な社会とは→SDGｓ
- 私達は、2100年に、何度までの（平均）気温上昇リスクを受け入れられるか→パリ協定「最大2度まで、できれば1.5度」

- 私達は、2030年、どれだけの生物多様性の損失とそのリスクを受け入れられるか→ポスト愛知「損失を受け入れる？、とめる？、回復させる？」

にじゅうまるプロジェクト　参加団体拡大中

学ぶ

↓

宣言する

↓

行動する

→

にじゅうまるプロジェクト
for Life on Earth 2011－2020

愛知ターゲット達成をめざすメンバーに

全国各地

579団体が

792のアクション宣言

詳しくは、チラシ

http://bd20/jp